

天声人語

古代都市の栄華を今に伝えるパルミラ遺跡は美しい。画家の平山郁夫さんは「シリアル砂漠に咲いた大輪の花」と称賛し、幻想的な作品を残した。廢墟を背景にラクダの隊商が歩む朝と夜の2枚の絵を、ご存じの方もおいでだろう▼パルミラの名は、紀元前1世紀ごろに史上に現れる。交易の要衝として栄えた。東西の物品が集まつては散つていくオアシス都市だった。壮大な神殿を残す廢墟は、古代シルクロードに残る最も魅力的な遺跡と言われて久しい▼その世界遺産が、過激派組織「イスラム国」（IS）の手に落ちて最悪の事態になつている。蛮行はエスカレートし、象徴でもあるペル神殿が破壊された衛星写真が先ごろ配信されていた。さらに、残忍なニュースも届く▼前のパルミラ博物館長で高名な学者だったハレド・アサド氏が惨殺された。八十余年の生涯をかけて遺跡の保存に尽くした人だ。欧米メディアによれば、捕らわれて貴重な石像物などの所在を問い合わせられたが、口を割らず拒み通したという▼日本からの調査団も再三この人にお世話をになり、展覧会で来日したことわざつた。遺体は遺跡で見せしめにされたという。あまりの非道に胸が痛い▼パルミラの歴史は、気高く聰明な女王ゼノビアがローマ皇帝に滅ぼされた悲劇的な物語を秘める。そのローマ軍もペル神殿は壊さなかつたと、考古学者の江上波夫さんが書いていた。世界の懸念をもてあそぶように破壊と非道を誇示する集団、もはや史上の禍事である。

2015・9・3